

Unit 12 定冠詞

不定冠詞は話し手がどういう対象を念頭においているかを示す印ですが、定冠詞のthe を使うかどうかは、どういう対象を話題にしているかではなく、相手と情報共有しているかどうかの問題です。不定冠詞が対象把握の問題だとすれば、定冠詞は情報共有の問題です。だから、まず言いたい対象を決め、次に相手にとってそれが特定できるかどうかを判断します。

the は情報共有のマーカーです。ポイントは、相手が対象を特定できるかどうかです。つまり、話し手にとって特定できても相手が特定できなければthe は使えません。遊びでいたずらな少年に頭を叩かれた少年が帰宅し、いきなり The boy hit me. と母親に言えば、母親は Which boy are you talking about? と応じるでしょう。自分だけがわかっているてもtheは使えないということです。the を使う際の原理は、「相手が対象を特定し、共有できる」ということです。情報共有のしかたには、①常識的共有、②文脈的共有、③場面的共有の3つがあります。以下に例を示します。

常識的共有

地球や太陽は人類が常識的に共有しており、どの地球（太陽）かが相手も特定できると判断するためthe earth とかthe sun と表現することができます。

The earth goes around the sun.

地球は太陽のまわりを回っている。

She plays the piano every day. の the piano は「いわゆるピアノ」で常識的共有の例です。

文脈的共有

(I bought a cute cat.) The cat always makes me feel relaxed.

(かわいいネコを買った。ネコは私をいつもくつろいだ気持ちにしてくれる。)

場面的共有

ふたりで歩いていて怖そうな犬が見えたとして、Watch the dog. (犬に気をつけて) のthe dogは場面で相手と共有できる対象を指しています。

例えば、以下の英文を見てみましょう。

Silver: Two weeks ago a man named Aaronberg was shot to death, the corner of Racine and Belden-

-this is public knowledge. Two people saw the crime, and this was also in the papers. This is public knowledge. What I'm going to tell you now is not public knowledge. Do you understand?...Good.

(二週間前、アーロンバーグという男が撃ち殺された。ラシンとベルデンの角のところだね。これは公表されている点だ。2人の人間が犯罪を目撃した。これも新聞に出たことだ。これも公表された点だ。これから言おうとしているのは公表されていないことだ。分かったかね。....よろしい。)

【映画 THINGS CHANGE】

the の使い方をみてみると the corner of Racine and Belden、the papers、the crime があります。the cornerだけでは情報共有できませんが、of Racine and Belden によって文脈的な共有が可能となります。the crime は初出だが、常識で Two weeks ago a man named Aaronberg was shot to death のことを指しているということが判断でき、常識的共有のケースです。I got a car, but the engine was out. (車はあったんだけど、エンジンがいかれてた) の the engine も〈車にはエンジンがある〉という常識をあてにすることで可能な表現なわけです。次に the papers は慣用化されており「新聞」の意になりますが、これも常識的共有の場合だといえます。なお、public knowledge は「公に知られた知識」という意で抽象名詞として扱われています。

the は「その」ではありません。たしかに、Call the cops. は「警察を呼んで！」であって、「その警察」ではおかしいですね。The sun rises in the east. も「その太陽はその東に昇る」では不自然です。ところが、Give me the bottle. だと「その瓶をぼくに取ってくれ」となり、ここでは「the bottle = その瓶」となります。the は、「その」というより、上で指摘したように「話し手と聞き手が情報を共有している」ということの印 (共有感覚の印)」です。どういう場合に、話し手は相手との共有感覚を想定することができるかといえば、上の3つの場合があります。すると、文脈的共有と場面的共有の the については「その」という訳語を当てることが可能ですが、常識的共有については「その」を当てることはできないということがわかります。Call the cops. の場合は、常識的共有の the になります。常識的共有とは、ある集団内で常識とされていることを前提に、相手も対象を特定可能であろうと想定する場合をいいます。How can I get to the post office? と質問するときの話し手の気持ちとしては、the post office と表現することで、相手が「最寄りの郵便局」への行き方を教えてくれるだろうという思いがあります。これが a post office だと、前提として複数の郵便局があって、そのどこでもよいという意味合いになってしまいます。